

～「新しい公共」 ひらかた から 世界へ！～

第2弾 (2010.12.22) 福井(鯖江市&越前市) ツアー

JPTA-Osaka 藤田 一良&辻野 忠

【コミュニティカフェ 「こころ」】

「こころ」店長&さばえ NPO サポート元理事長 清水 孝次 氏
鯖江市総務部市民協働課&NPO えちぜん事務局 橋本 和久 氏
中日新聞記者&さばえ NPO サポート広報担当 田中 宏幸 氏

◇ 鯖江の NPO 活動の立ち上げ

1995 世界体操を機に、まちづくりの意識 UP
青年会などをベースに市民活動グループの結成、ネットワーク化
～横のつながり、定期的連絡会議

「共通する悩み、テーマ」を解決していくために

自然と、「中間支援の動き」「活動場所」「活動を支える制度」「組織」などが
市民の要望として出てきた！＝「市民活動支援センター」「NPO」

当時の新市長（当時の三重 北川知事とのつながり）と共に
福井/滋賀/三重 3 県の連携を 3 年間続けた（市民活動フォーラム、県民フォーラム）
1998～1999 年頃は他地域でも同様の活動が展開されていた。（3～4 地域へ視察）

福井県&鯖江市でも、それぞれのキーパーソンを軸に、国⇄県⇄市が繋がっていた。
（‘人’と‘人’とのつながり）

◇ 市民活動支援センター&NPO の拡がり

‘センター’を所属団体の寄合で支える
↓
中間支援のための サポート法人「さばえ NPO サポート」を設立 ← 市民活動 G
↓
「市民連絡会議」への拡がり（Give&Take）
↓
「市民協働推進会議」の必要性 + 下支えの「条例」 ← ‘市民’サイドからの提案
↓
‘行政’の理解 ～ワークショップの開催

【鯖江市市民協働課 ⇄ NPO 側 の連携による流れづくり、ストーリー作り】

【さばえ NPO サポート】

さばえ NPO サポート事務局員 松田 恵 氏
中日新聞記者&さばえ NPO サポート広報担当 田中 宏幸 氏
鯖江市総務部市民協働課&NPO えちぜん事務局長 橋本 和久 氏

◇ ‘市民’ と ‘行政’ の協働のしかけ作り

【場】

- ・市民協働推進会議 2004 ～
- ・市民主役委員会

【条例】

- ・まちづくり推進条例 2003/10 ～
- ・市民主役条例 2010/9 ～



◇ 提案型 市民主役 事業化制度 (2010.11.18～12.24 募集、2011 年度予算)

【資源】

- 1) まずは ‘行政’ の中に眠っている ‘レアアース’ → リスト上に掘り起こし
- 2) NPO・市民活動団体からの提案 を集める
- 3) 最終的には NPO・市民活動団体からの提案を主体とする

【協働】

行政の持っている ‘広報力’ ‘信用力’ ⇔ 生活密着型 草の根活動



【NPO 法人 丹南市民自治研究センター】

<http://www4.ttn.ne.jp/~jichiken/>

理事長&社会福祉法人越前自立支援協会 副理事長 伊藤 藤夫 氏
事務局長&越前市農政課職員 川崎 規生 氏
理事、児童養護施設 施設長&元越前市役所職員 橋本 達昌 氏
鯖江市総務部市民協働課&NPO えちぜん事務局長 橋本 和久 氏

◇ 市職員と市民との協働のポイント

【市民からの提案】

- ・収支見込などの長期展望が必要
- ・まず自助努力+企業とのコラボ、そして行政

【NPO の良さ】

- ・自治体に比べ、足かせ・手かせが少なく、意思決定が早い。
- ・丹南～ はNPO として‘自治研究’をする全国ではじめての組織

【丹南市民自治研究センターの思い】

- ・市民活動 = 自分たちで‘好きなこと’をやろう！（大事なこと、楽しいこと）
- ・自分たちの力で‘輪’を‘広げる’
- ・とにかく‘具体的なこと’をテーマに挙げる
それを達成するために、まずいろんな団体とつながり、共催する流れをつくる
⇒ 会費制、寄付制、影響力の up など
どうしても力が足りないとき、行政の補助や知恵を借りる
(現在も、ほとんど行政からもらっていない)
- ・‘面白い’からやる。面白くなければ明日にでもやめる。
- ・「協働」や「新しい公共」は‘議論’することだけでなく、‘体験’‘実践’すること。

【行政とつながるためには】

- ・‘役所’の人を‘個人’の仲間として迎えていく（‘人’と‘人’ not 団体交渉）
- ・‘共通のテーマ’を基に、‘勉強会’‘学習会’～‘実行委員会’へと立ち上げていく流れ
「こんな活動・事業をやらなあかんと思ってる」「こんな活動・事業を一緒にやりませんか？」
「‘当事者’になってみてください」

